

片山地方相 柏の葉視察

自立電源など「最先端を実施」

片山地方創生相が22日、柏市を訪れ、市民が連携して街づくりを進めている北部地区「柏の葉スマートシティ」や在宅医療の推進拠点、中心市街地を視察した。政府の新たな国家戦略特区制度「スマートシティ構想」に基づき来訪で、片山地方創生相は「最先端を実施しつつある街。(未来の街は)こういう形に変わっていくんだ」と、この都市づくりを先見でやっている「と高く評価した。

スマートシティ構想は、「市を先取りしたモデルタウンの書き出しに最先端技術の2030年ごろの未来都市」を準備する計画。市人正知能(AI)やビッグ

データを導入することで、車の自動運転やドローン配達、遠隔診療などの実現を目指す。モデルタウンの対象地域は全国で数カ所となる見込みで、政府は有識者懇談会を経て来夏以降にも公募する方針を示している。

片山地方創生相は、地域

「強みはたくさんある」

片山地方創生相は視察後、柏市内で千葉日報社のインタビューに応じた。主な取り扱いは次の通り。

視察を終えての感想は「DCCセンター長の」出口先生は柏は中心市街地の集客に成功している。I都B県の中で恵まれる。街づくりには何か必要か、視察を受けた。柏の葉は、東大、千葉大、超大手のデベロッパーが一緒に取り組む。強みはたくさんある。エネルギーが一緒に取り組む。DCCセンター長の」出口先生は柏は中心市街地の集客に成功している。I都B県の中で恵まれる。街づくりには何か必要か、視察を受けた。柏の葉は、東大、千葉大、超大手のデベロッパーが一緒に取り組む。強みはたくさんある。エネルギーが一緒に取り組む。

一問一答



千葉日報社のインタビューに答える片山地方創生相

型電源、水もある。このインフラ自己型の発想がすごい。ヘルパーを置くにしても良い。柏の葉には、大学や研究的な要素が最も進んでいると思った。

スマートシティ構想の課題は、データを安全に共有するため、市の仕組み。今は個人データの國內外流出に対する拒否感が強く、われわれは国内にサーバーを置くというのを義務化しようとしている。東大のスーパーコンピュータが(柏の葉)問題が一番顕在化する地域なの

「政府は全国82市を中核中核都市に選び、支援に乗り出したが、柏市をはじめ県内自治体は選ばれていない。今回82市に1都3県は入らななかったが、高輪化、介護難民の多様性があるし、開発余地も



都市模型を参考に、柏の葉地区の街づくりについてUDCCの出口敦センター長(右)から解説を受ける片山地方創生相(中央)＝22日午後、柏市

スマートシティへ移動。市に配属したエネルギー管理、行政、大学、企業が連携した国内初の街づくりプラットフォーム「柏の葉スマートシティ」へ足を運び、出て「公共、民間、学界が一口敦センター長から柏の葉手に総合的な絵を描いていくことになれば、目指す地域の開発の歴史や、環境る」と指摘。また、災害時き方向と称賛した。

「良いところに着目している。電力で自立でき、さらにCO2フリーの環境に配慮した。自立電源の街づくり」

地方創生相が柏視察

「スーパーシティ構想」念頭に

片山さつ子地方創生相が22日、柏市を訪れ、街づくりで先進的な取り組みを進める3カ所を視察した。最先端技術を集めた街づくりを目指す「スーパーシティ構想」を念頭に置いた視察が主な目的で、様々な取り組みに耳を傾けた。



「スマートシティ」の構想が進められている柏の葉地区の構想の前で説明を受け、片山さつ子地方創生相(左から2人目)と柏市

研究開発などが集まる柏の葉地区。つくばエクスプレス柏の葉キャンパス駅周辺は「八民学」が連携して街づくりを協議し、環境共生や健康長寿、新産業創出をテーマにした次世代型都市「スマートシティ」の構想が進められている。

片山氏は街づくりを推進する組織「柏の葉アーバンデザインセンター」を訪れて説明を受けた。街全体で電力を効率的に使うため太陽光発電設備などが設置されており、発電施設の状態などを担当者に質問した。建て替えなど、団地再生事業が進む豊四季台団地にも足を運んだ。地域で医療や介護が受けられる「地域包括ケアシステム」の構築が進められており、片山氏は状況を聞いた後、団地内を

歩いて関連施設を見学。また、中心市街地活性化(中活)事業として2016年にオープンした柏駅近くの市文化・交流複合施設「パレット柏」も視察した。片山氏は「スマートシティで得られた知見はスーパーシティに流し込んでいく。柏の葉は公共と民間、学界が協力的な絵を描き、デザインセンターが機能している。豊四季台団地は取り組みの成果が生きている。パレット柏は中活の具本になると語った。(上掲紙継